

平成17年度 中央研修会募集要項（後期）

— 保健・医療・福祉従事者の人材育成、知識・技術・情報の提供 —

保健・医療・福祉の明日を見つめる

財団法人地域社会振興財団

■ (財) 地域社会振興財団について

設立の趣旨

地域社会振興財団は、へき地などの地域社会が抱える諸問題について、基礎的・総合的な研究を行い、そこで生活する人々が生きがいをもって健やかに暮らすことができる地域社会づくりに貢献し、地方自治の基礎の充実に寄与することを目的として、1972年12月に「へき地振興財団」の名称で設立された公益法人です。

以来、経済社会の動きを見つめながら、そのニーズに沿った事業を行ってまいりましたが、近年地域住民の方々の高齢化が急速に進行し、地方公共団体では、これに対する適切な施策が重要な課題となっていることに着目して、これを支援する事業に取り組むことになり、名称を1989年4月に「地域社会振興財団」と改め、現在に至っております。

事業概要

§ 調査・研究事業

へき地などの地域住民の疾病の特異性、病態生理、その原因等を明らかにするとともに、それに対する有効な対策について研究することを目的として、1973年4月に環境医学部門、血液医学研究部門、病態生理研究部門、情報システム研究部門の4部門からなる「へき地生態科学研究所」を設置し、1989年5月には同研究所大宮支所を設立しました。

その後、地域社会における高齢化、少子化の急激な進行や介護保険制度の実施をはじめとする保健・医療・福祉を統合した新たな施策に対するニーズに応え、併せて全国各地の地域医療の現場に対する支援を強化するため、1998年4月に保健科学研究部門、健康福祉計画研究部門の2部門を加え、その名称を「地域社会健康科学研究所」と改め、現在に至っております。

§ 研修事業

当財団では、自治医科大学と密接な連携のもとに、地方自治体や地域医療関係団体等が推進する保健・医療・福祉事業のそれぞれの分野からのニーズに応えるべく、1975年より、研修会を開催しています。

研修会の受講対象者は、地域医療に従事する医師、保健師、看護師、医療技術者、救急隊員などの地域医療従事者や地域住民を対象としており、「中央研修会」と称し、自治医科大学内にある地域医療情報研修センターで、また、「現地研修会」と称し、全国各地で、合せて年間30回程度の研修会を開催しています。

§ 交付金交付事業

栃木県から発行される「地域医療等振興自治宝くじ」（通称＝レインボーくじ）の収益金を財源として「長寿社会づくりソフト事業費交付金交付事業」、「人材育成事業」及び「整備拡充事業費交付金交付事業」を実施しています。

長寿社会づくりソフト事業費交付金交付事業として、地方自治体が積極的に取り組んでいる長寿社会づくりのためのソフト事業に対し、都道府県を対象とする一般事業と都道府県及び市町村を対象とする特定事業の２種類の交付金を交付しています。

人材育成事業として、保健・医療・福祉事業に携わる医師、保健師及び事務の市町村職員等を対象に、保健・医療・福祉事業をプランニングするために必要な基礎的・専門的知識及び企画立案能力の習得を目的に「健康福祉プランナー養成塾」を開催しています。また、研修事業も、この一環として行っている事業のひとつです。

整備拡充事業費交付金交付事業として、我が国のへき地等地域医療の先駆的な役割を担っている自治医科大学の教育・研究に欠くことのできない施設設備や教育研究機器などの整備拡充を支援するために交付金を交付しています。

§ 日本自転車振興会補助事業

当財団の地域社会健康科学研究所の建物及び研究機器は、日本自転車振興会からの補助金により整備しています。

特に研究機器につきましては、当財団の主事業である調査・研究事業を推進する上で必要であり、高度な研究を維持するとともに、毎年度成果をあげております。なお、「地域社会健康科学研究所研究報告書」として取りまとめ発刊しています。

当財団は、今後とも、このような事業を通じ、地域社会における保健・医療・福祉事業の向上に貢献していく所存でございますので、ご協力ご支援の程よろしくお願いいたします。

■ 中央研修会について

当財団の研修事業のひとつである中央研修会は、地域社会において保健・医療・福祉事業に携わる方々が、最新の医学知識と医療技術を習得することにより、地域住民の方々が安心して生活できるような地域社会にすることを願い、実施しています。

今回は、平成１７年度の後期（１０月～２月）に開催します研修内容等についてご案内させていただきますので、是非ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

V. 保健活動研修会

【テーマ】 保健活動における調査研究の進め方 ～よりよい調査・研究を行うために～

【ねらい】 日常の保健活動を通して、必要な調査・研究の方法を習得する。既存資料の解析の他に、明確な目的に基づいて適切な計画（対象の設定、サンプルサイズの決定、調査票のデザイン、内容、質問項目設定のしかた、回収方法など）方法と結果の解析として単純集計、クロス集計、推定、検定、年齢、調整などデータのまとめ方として疫学・統計の基本を学ぶ。
情報の発信として行った調査研究を論文にまとめたり、学会発表や住民に対してプレゼンテーションを行う技術を習得する。地域診断や事業評価への応用、将来の研究に役立てる。

【研修期間】 平成18年1月25日（水）9：00 ～ 1月27日（金）16：00

【対象者】 保健所・市町村・事業所などで保健活動に携わる保健師
看護師、保健師、学生などで研究に携わる予定の人
公衆衛生に携わる医師

【定員】 40名

【講義内容】

	講義名	講師名
1日目	保健活動における調査研究のアウトライン	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教授 中村 好一
	保健情報の検索 ～インターネットと医学中央雑誌(演習を含む)～	自治医科大学看護学部 教授 渡邊 亮一
	調査研究と公衆衛生	埼玉県立大学 学長 柳 川 洋
2日目	統計分析の基礎	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 講師 大木 いずみ
	新規調査の方法	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助手 上原 里程
	グループワーク	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助教授 尾島 俊之 他
	調査研究の実例（事例検討）	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教授 中村 好一 他
3日目	表計算ソフトエクセル他（演習）	パソナコンジゅく チューター 原 久子 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助教授 尾島 俊之 他
	パソコン基本操作による統計	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 助手 渡邊 至
	研究成果のまとめ方 ー地域からの発信ー	山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授 山 縣 然太郎
	総括と質疑応答	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教授 中村 好一 他

【申込期間】 平成17年10月3日（月） ～ 12月22日（木） 【当日消印有効】

Ⅵ. 在宅リハビリ研修会

【テーマ】 使える在宅リハビリ実践法－障害の理解と自立支援－

【ねらい】 病院や施設で適切なリハビリテーションを受けずに在宅生活を始めた患者の多くは、廃用症候、あるいは誤用症候等により徐々に自立生活に困難を来し、介護を要する状態となる。機能や能力が低下した方に対しての介護サービスは必ずしも機能や能力を向上させる対応が適切になされているとは思えないのが現状である。リハビリテーションと言う理念が医療に導入されて40年が経過したが、リハビリテーションと機能訓練をイコールと捉えている医療従事者が多い。この研修では、本来のリハビリテーションの意義を理解すると共に障害を持った方の障害特性を知り、適切な生活支援、介護者支援ができる医療関連職種の育成を目的に行いたいと考えています。

【研修期間】 平成18年2月3日（金）9：40 ～ 2月5日（日）11：40

【対象者】 医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、その他

【定員】 30名

【講義内容】

	講義名	講師名
1日目	リハビリテーション －理念と技術－	マロニエ医療福祉専門学校 副校長 谷岡 淳
	在宅での褥瘡対策	自治医科大学附属病院看護部褥瘡対策委員 WOC認定看護師 太田 信子
	在宅リハビリテーションの依頼、 連携の取り方	西吾妻福祉病院 管理者 折茂 賢一郎
	グループディスカッション	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 室長 金子 操
2日目	在宅呼吸リハビリテーション (呼吸理学療法の実践)	秋田市立秋田総合病院リハビリテーション科 副技師長 高橋 仁美
	在宅片麻痺患者の廃用症候群と理 学療法	マロニエ医療福祉専門学校医療学部 学部長 菅原 和幸
	障害者の生活支援 (障害別自助具)	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 主任作業療法士 黒 渕 永 寿
	転倒患者への対応 (転倒予防から生活再建まで)	博愛会 菅間記念病院リハビリテーション科 技師長 金谷 さとみ
	グループディスカッション	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 室長 金子 操
3日目	家庭で使える福祉用具	老人保健施設 生きいき倶楽部 理学療法士 江 連 素 実
	まとめ（全体の質疑応答）	自治医科大学附属病院リハビリテーションセンター 室長 金子 操

【申込期間】 平成17年11月1日（火） ～ 平成18年1月6日（金） 【当日消印有効】

Ⅶ. 臨床医学研修会

【テーマ】 第一線医療に必要な知識と技術

【ねらい】 これから地域で第一線医療に従事しようとする若手医師に必要な知識、技術などを再発見する。

【研修期間】 平成18年2月24日（金）12：30 ～ 2月26日（日）11：30

【対象者】 第一線医療機関に赴く医師

【定員】 50名

【講義内容】 *講義の順番が変更になることがあります。

	講 義 名	講 師 名
1日目	開講式	自治医科大学 学 長 高 久 史 磨
	整形外科編	自治医科大学整形外科学 教 授 星 野 雄 一
	皮膚科編	自治医科大学皮膚科学 助 教 授 村 田 哲
	救急医学編	自治医科大学救急医学 助 教 授 加 藤 正 哉
2日目	医療安全編 ー安全な医療を提供するためにー	自治医科大学附属病院医療安全対策部 助 教 授 長谷川 剛
	神経内科編	自治医科大学内科学神経内科学部門 教 授 中 野 今 治
	介護保険・在宅診療編	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 助 手 鶴 岡 浩 樹
	循環器内科編	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 助 教 授 黒 木 茂 広
	地域立脚型リサーチ編 ー地域におけるリサーチの実践ー	西予市立野村病院 副 院 長 川 本 龍 一
	X線撮影編 ーX線撮影の基本/仕方ー	自治医科大学附属病院中央放射線部 副技師長 神 山 辰 彦
3日目	小児科編	自治医科大学小児科学 講 師 桃 谷 孝 之
	感染症編 ー感染症管理の基礎知識ー	自治医科大学附属病院感染制御部 部 長 森 澤 雄 司

【申込期間】 平成17年11月1日（火）～ 平成18年1月29日（金） 【当日消印有効】

中央研修会の申込方法及び宿泊について

受 講 料

25,000円 (中央研修会一律)

*研修会初日の受付時に「現金」でお支払いください。

研 修 会 場

地域医療情報研修センター (自治医科大学構内施設)

《所在地》 〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-160

申 込 方 法

- 1、別添「中央研修会受講申込書」に必要事項を記入の上、「郵送」によりお申込ください。
- 2、受講決定次第、必要書類等を返送いたしますので、返送先をご記入いただいた返信用封筒（角2＝A4サイズが折らずに入るもの）を同封してください。（切手貼付不要）
また、複数の方がお申込みの場合には、別添「中央研修会受講申込書」をコピーしてご使用ください。

《宛 先》

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-160 (財)地域社会振興財団事務局研修課
《問合せ先》

TEL 0285-58-7436 FAX 0285-44-7839

E-mail fdc@jichi.ac.jp URL <http://www.jichi.ac.jp/fdc/>

担 当 佐藤・高津・森戸・河原

受 講 決 定

- 1、受講決定は、各研修会の定員に対し、原則として受講申込書受付け順で行いますのでご了承ください。
- 2、各研修会の定員を超えた場合は、同施設で複数の受講申込者についても、調整させていただくことがありますので、併せてご了承ください。
- 3、受講決定につきましては、決定次第（締切日以降）送付いたします。

なお、講義内容等の一部が変更になることもありますので、予めご了承ください。

《送付書類》①受講決定通知 ②受講案内 ③研修会の日程表 など

泊

研修会場となります「地域医療情報研修センター」には宿泊施設がございませんので、研修会中は、当会場周辺のホテル2施設をご優待料金でご利用できます。

- ① ホテルニューイタヤ (ＪＲ宇都宮駅西口から徒歩５分)
② ホテルエクセルイン小山 (ＪＲ小山駅東口から徒歩２分)

宿泊施設	ホテルニューイタヤ	ホテルエクセルイン小山
アクセス 室タイプ	J R 宇都宮駅西口から徒歩 5 分 シングル (朝食バイキングつき)	J R 小山駅東口から徒歩 2 分 シングル (朝食サービスあり。パン・コーヒー等)
料 金	6, 8 0 0 円 (サービス料・消費税込み)	5, 8 0 0 円 (サービス料・消費税込み)
広 さ	1 5 m ² /室	1 2 m ² /室
研修会場の 交通	J R 宇都宮駅から上り 3 駅目 当研修会宿泊者数 6 名様以上で送迎あり * 研修会開催約 2 週間前にホテルにご確認ください。	J R 小山駅から下り 2 駅目
※在来線は上野駅で乗換え (研修会場の最寄駅) * 上野駅から小山駅間の駅は割愛しております。 自治医大駅から徒歩 8 分		
設 備	テレビ・湯沸しポット・お茶・石鹸・リンスインシャンプー・歯磨きセット・タオル・バスタオル・冷蔵庫・ドライヤー・浴衣・スリッパ	
H P	http://www.newitaya.com/	http://www.excelinn-oyama.com/
電話/FAX	028-635-5511(代)/028-633-3772(FAX)	0285-30-5555(代)/0285-30-6700(FAX)
お支払い	現金・クレジットカード可	現金・前払い(クレジットカード利用の場合優待料金適用無)

各自でホテルにお申込下さい。その際「**地域社会振興財団の研修会に参加する。**」と伝えてください。

各自で対処してください。

尚、取消料につきましては、下記のとおりです。

宿泊日の前日まで	当日・無連絡
無 料	宿泊料金の１００％

領 収 書

「受講料」の領収書につきましては、お支払い（現金）と引換えに発行いたします。

なお、通常の宛名は、勤務機関名を記載しますが、希望する宛名がある方は、「中央研修会受講申込書」の「領収書の宛名」の欄にご記入ください。

昼 食

受講生の研修期間中の昼食は、当財団で用意いたします。

修 了 証 書

研修会の全日程を受講された方に修了証書を交付いたします。

研 修 会 初 日

各研修会の初日に、受付・開講式・オリエンテーションを行います。

なお、概ね次のとおりとなりますが、時間等が変更になる研修会もございますので、その際には受講決定通知に同封する「受講案内」にて、お知らせいたします。

- ① 受付 9:00～9:30 ② 開講式 9:30～9:50(オリエンテーション含む)
- ③ 講義 10:00～

交 通 ア ク セ ス

お越しになる際の交通手段については、公共交通機関等をご利用ください。

なお、車のご利用はご遠慮ください。

- ① 会場の最寄駅は、宇都宮線の「自治医大駅」です。
- ② 自治医大駅東口から、徒歩約8分となります。
- ③ 詳しくは、「会場への交通」（裏表紙）を、ご参照ください。

平成18年度中央研修会 の ご 案 内

次年度に開催する中央研修会のご案内は、平成18年4月初旬ごろに送付予定ですので、よろしく申し上げます。

ホ ー ム ペ ー ジ

当財団の事業概要及び中央研修会・現地研修会の詳細が、ホームページに掲載されておりますので、是非ご覧下さい。

U R L = <http://www.jichi.ac.jp/fdc/>

平成17年度中央研修会受講申込書(後期)

希望研修会		第29回看護師長研修会		第26回保健活動研修会
※ ○を付けて ください		第13回救急医療研修会		第10回在宅リハビリ研修会
		第27回放射線技師研修会		第88回臨床医学研修会
		第7回健康教育・ヘルスプロモーション研修会		

受講者	ふりがな 氏 名				(男 ・ 女)	
	生年月日	年 月 日 (歳)				
勤務 機 関	ふりがな 名 称				病 床 数	床
	住 所	〒				
	所 属		職名(役職)		【自治医科大学卒業生】	
	職種(資格)		経 験 年 数	年	年卒業 (期生)	
	電話番号	— (内線)				
	F A X	—				
	メールアドレス	* Eメールにより情報交換を行いたい方は、職場のメールアドレスをご記入ください。				
領収書の宛名						

切り取り線

★研修会受講申込みに係る連絡先

ご連絡方法	* ご都合のよろしい方法を選択の上ご記入願います。
1 電話番号	
2 メールアドレス	
3 FAX	

★その他・ご要望

--

上記のとおり申し込みます

平成 年 月 日

(財)地域社会振興財団 理事長 様

(備考) 複数お申し込みの際には、この様式「平成17年中央研修会受講申込書(後期)」をコピーしてご使用ください。

個人情報の取り扱いについて

研修会受講申込書に記載された皆様の個人情報は、当該研修会にのみ使用させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

また、この中から、受講者名簿として必要な情報を掲載し、研修会初日に全受講者に配布させていただきますので、併せてご了承をお願いいたします。